



# 西念寺だより 文月号

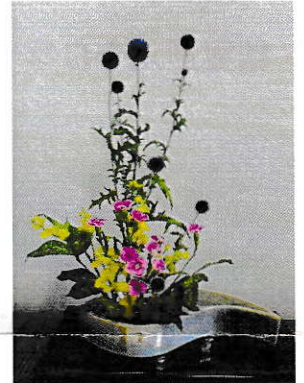


令和4年7月20日

〒610-0331 京田辺市田辺北里29番地  
TEL 0774-62-1027, 63-2912 FAX 26-9683

## 露の身は ここかしこにて 消えぬとも ころろは同じ 花のうてなぞ

盆は嬉しや 別れた人も 晴れてこの世に 会いにくる



今年も前例がない程早く梅雨明けし、6月から真夏のような暑さが続いています。皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。

コロナもまた新たな変異株の出現でじわじわと感染が拡大しており、収束の気配が見えない中、当山護持隆盛に何かと御配慮と御協力を賜りまして誠にありがとうございます。

今年もお盆が近づいて参りました。棚経や十日盆の御案内を同封しておりますので御一読いただきまして、無事に終わられるよう御協力の程宜しくお願い申し上げます。

さて、冒頭の歌は法然上人の御作で、今からおよそ850年前に詠まれた歌です。当時は、法然上人の説かれた念仏の教えが大いに広まり、比叡山や興福寺など旧仏教側が朝廷に働きかけ、浄土宗の弾圧を画策していた時代でした。

悲劇の始まりは、建永元年に東山の鹿ヶ谷の草庵で修した別時念仏・六時礼讃の法要に参加した後鳥羽上皇の女官松虫、鈴虫の2人が出家したことが直接のきっかけでした。

六時礼讃とは、一日を六つの時に分けて、浄土宗の高祖、唐の善導大師撰『往生礼讃偈』に節をつけて称え、礼拝される行です。お弟子の住蓮、安楽の二人は、声明に優れ、その声は哀歓悲喜の音曲をなして人々の心に響いたそうです。

しかし、熊野へ臨幸していた留守中に女官が出家したことに後鳥羽上皇は激怒し、法然上人門下への弾圧が強まり建永2年に法然上人と7人の弟子が流罪、住蓮や安楽など弟子4人が斬罪になりました。これを建永の法難といいます。



法然上人は土佐へ流されることになりましたが、上人に深く帰依していた九条兼実公の配慮で讃岐にとどめられたと伝えられています。兼実公は上人との別れを悲しみ、法然上人に手紙を送りました。その中に、

ふりすてて ゆくはわかれの はしなれど ふみわたすべきことを しそとおもふと詠まれ、これに対する法然上人の御返事が冒頭の「露の身は…」の歌です。

「私たちの命は、露のようにはかなく、いつ尽きるとも限りませんが、念仏を称える者は必ず極楽浄土に往生し、蓮華の座で再び会うことができます。」と説かれました。

この別れの後、間もなく54歳で九条兼実公は亡くなりましたが、浄土三部経の一つ『阿弥陀経』で説かれた「俱会一处」の教えが、法然上人と離れ離れになった弟子や帰依した人々を今も結んでいます。

誰しも家族や親しい人との別れは、言葉に尽くせないほどの悲しみですが、お念仏をお唱えいただく生涯をおくれば、お浄土で再び会えることを法然上人は何度も説かれています。お盆には日々大禍無く無事に過ごさせていただいている事に感謝し、改めて御先祖や父母をはじめ、多くの命の繋がりの中で生かされている自分に気付くと共に、自他ともに救われる功德を積む、お盆をそのような気持ちでお迎えしたいと思ひます。



**裏面に続く**

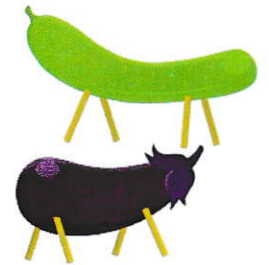


## 【本年度お盆行事について】

最近になって再びコロナウイルスの感染拡大が報じられています。皆様方の安全安心に配慮した対応を心掛けておりますので、御理解御協力をお願い申し上げます。

- ・ **境内お墓参り**
  - ・ 例年どおり、5日(金)～7日(日)まで行います。
  - ・ 本堂内では、マスクとアルコール消毒液の使用をお願いします。
  - ・ お墓参りをお済ませいただき、本堂内で御回向申し上げます。
  - ・ 感染予防のため、今年も缶入りのお茶で接待させていただきます。
- ・ **精霊迎え十日盆**
  - ・ マスクの着用と本堂・観音堂・鐘楼では、手指の消毒をお願いします。
  - ・ 卒塔婆を書かせていただくところは透明ビニール等で飛沫感染予防いたします。またお待ちいただく椅子も従来より広く配置します。
  - ・ これまで田辺朗寿会様の御協力で、参拝者の方々にかき氷の接待をお願いしておりましたが、今回も中止させていただきます。  
なお、朝顔展は従来どおり開催させていただきます。
  - ・ 駐車場は大変狭いため、田辺区公民館駐車場をお借りしています。そちらも合わせて御利用ください。
- ・ **棚 経  
(お盆の棚参り)**
  - ・ 従来どおりの方法で実施させていただきますが、マスクを着用してお伺いし、読経中はマスクを外させていただきます。
  - ・ 誠に勝手ながら、お茶等の御接待は昨今の諸事情から今回も御遠慮申し上げます。
- ・ **本堂内での地藏盆、祠堂施餓鬼**
  - ・ 今回も住職のみで実施させていただきます。  
永代祠堂寄進の皆様には誠に申し訳ありませんが御了承の程、お願い申し上げます。

以上が主な概要ですが、御不明な点や御希望、御意見等がございましたら、お寺または総代、評議員様まで御連絡お願い申し上げます。



## 【年忌法事での塔婆のお知らせ】

これまで御先祖様のお年忌の法事をお勤めいただく場合は、お戒名等を書かせていただいた塔婆を持参して参りましたが、最近になって塔婆の入手が大変困難になっております。当山ではこれまで木肌も美しく、全く節のない最高級品を栃木県の業者様より直接購入して参りましたが、価格の高騰に留まらず、現在在庫が無く最短で8月下旬頃の納品予定との連絡が来ております。材料の原木がウクライナから送られてこない事が原因との事です。それまでは節があるなど若干品質の劣るものを使用せざるを得ません。誠に申し訳ありませんが御了承の程、お願い申し上げます。

## 【来年より十日盆での高野槇一律無料配布中止のお知らせ】

毎年お盆には御先祖のお精霊さんが懐かしき我が家に帰ってこられます。水塔婆を書いて回向し、迎え鐘を撞いて高野槇の葉に乗って冥土から暫し里帰りされるという言い伝えに沿って、檀信徒様のみならず地域の皆様方に支えられて十日盆の精霊迎え行事を続けて参りました。しかしながら昨今の社会情勢の変化や価値観の多様化により、最近ではすっかり様変わりしました。

またこれまで永らく御回向料も据え置いて参りましたが、諸物価の高騰で十日盆の運営も年々厳しくなっております。そこで、これまでお配りしておりました高野槇ですが、最近では高野槇が必要ないとおっしゃる方も多く、また精霊迎えを行っている三室戸寺や六道参りなど、高野槇を無料配布しているところは例がない事から、来年より高野槇の一律配布を中止し、有償配布に切り替えるなどに変更させて頂きたいと存じます。詳細は今後総代会等で検討し、来年のお盆前には文書にてお知らせさせていただきます。